
こんな時の男の気持ち

タケ 3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

こんな時の男の気持ち

【Nコード】

N1334M

【作者名】

タケ3

【あらすじ】

何もかも普通な男、佐藤大悟朗。
男のこんな時！をもう一人の自分、ジョナサンと
相談しながら生きていく物語です。

焼肉編

僕の名前は佐藤^{さとう} 大悟朗^{だいごろう}

24歳だ。

まず、親に言いたい・・・。

なんで朗をつけたんよ!!!大悟で良かったじゃん!!!その方が現
代っぽいじゃん!!

どんだけ「ちゃん」言ってきたと思ってんだよ!!

この小説では私、大悟朗の気持ちを赤裸々に書いていきたいと思う。
そして、読者の女性よ。こんな時、男はこう思ってるという事を知
っていたきたい。

何にせよ、男という生き物は馬鹿が多い。

私もその一人ではあるが、自分の行動を時々客観的に見ているもう
一人の自分に馬鹿にされる。

「アーナターハー、ケツキョク、ナニガシタインヨー!?!」
へっ、

もう一人の自分は何故か外人風さ!!

今回は、最近あったこのもう一人の自分^{ジョナサン}との心の中でのやり取りを
書いていく事にする。

女性とご飯(焼肉)を食べに行く約束をした私。

その女性は同じ会社の事務で働いている。
歳が・・・一回り以上離れていて、バツイチ子持ちであるが・・・

とても素敵な女性なのである！！

会社の喫煙所で話をしていた時、「好きなひとがいてさー、でも全然振り向いてもらえなくてね。」
彼女は悩んでいた。

その人どんな人なん？と聞いたら、
何故か詳しくは言えないと教えてくれなかった。
年下・・・社会人・・・その人のヒントを教えて貰ったが、1つ疑問に思った。

自分はその人の事を知らないので詳しく言っただって構わないのに、
何で言えないの？

まさか知り合い！？まさか・・・

どうしても知りたくなった僕は、ご飯に誘ったというわけである。
何故か彼女もノリノリで、絶対行くわ！！という感じだった。

仕事終わり・・・

焼肉に向かう車内でジョナサンは現れた。

「私今日をめちゃ楽しみにしてたからね！」
その言葉を聞いた時だ。

「スキナヒートー、アナータジャナイ？」
実は少しだけそうかもと思っていた。と、思ってたらのジヨナサン
！！

楽しみだね、いっぱい食べようね、二人っきりは初めてだから緊張
するね・・・

「マチガイナイネ、コリヤホレテマンナー！！」

焼肉屋に着いた。

車内ではジヨナサンの猛攻が続いていたので、早く席に着いて落ち
着きたかった。

何人前かの肉を注文し、待っていた時に僕は思い切ってきりだした。
「んで、そろそろ好きな人の事詳しく聞かせてもらってもいいです
かねー？」

「キイチヤッタヨ！実は・・・あなたなのよ。ツテイワレタラドウ
スルツモリダヨ！」

「シラナイフリシテイマノママデイイジャネエカヨ！」

そう、皆さんも気づいたと思うが、

カタカナは非常に読みにくい。

なので、これからジヨナサンも普通に書きます。

それはそうと、質問をしてしまった僕。

心のどこかで自分やったらなんて断ればいいかな。と考えていたり、または、やっぱり自分ではないのかな。と思ったり、でも自分だったら少し嬉しいな。と思う自分もいるのだ。

なんて勝手な男だろうか。そんな自分が嫌いだなと思いつつ質問の答えを待つ・・・

「えーとね、最近全く会ってないんだけど、」

いきなりちげーよー！！！！！！
話聞いていったら全然知り合いでもねー！！！！！！

女性を送った帰りの車内。

ジヨナサン「踊らされてたねー。」

「見事やったねー。」

「俺って・・・馬鹿だねー。」

ジヨ「少し期待してたしね。ご飯にも誘って、自分でもなけりや、知り合いでもない・・・」

アーナターハ、ケツキヨク、ナニガシタインヨー！？

まあ・・・結局こんなもんですよ！！

今回お申し込みありがとうございます。

ではでは。

焼肉編（後書き）

話のネタは、ジヨナサン以外ノンフィクションです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1334m/>

こんな時の男の気持ち

2010年10月13日08時23分発行